

南国病院広報誌

第30号 2016年10月31日発行



つくし



日本医療機能評価機構認定病院
初回認定 2011年8月5日
3rdG: Ver.1.1 更新認定
主たる機能: 慢性期病院
副機能: 精神科病院

■発行元■

南国市大塚甲 1479-3
医療法人つくし会 南国病院
Tel (代) 088-864-3137
Fax 088-863-3070
<http://www.nankoku-hp.or.jp>



(故) 前理事長を偲んで

医療法人つくし会 理事長

南国病院 院長 中澤 宏之

前理事長、父、中澤誠一郎は9月9日に90歳の生涯を閉じました。故人の通夜、葬儀の際には沢山の方々にご参列、ご弔意を頂き本当にありがとうございました。改めて、心よりお礼申し上げます。

父は、昭和44年に南国病院を開設し、当初より地域の皆様への貢献、周辺医療機関・施設との連携、身体・神経所見を重視した、全人的で暖かい精神科医療を重視しておりました。在宅医療についても早期から必要性を唱え、精神科デイケア、訪問看護ステーション、通所リハビリテーションを順次開設したのも地域での生活、療養を大切にしたい考えの表れでした。その思いは勤務して下さる職員の方々に理解され、つくし会の名称の由来ともなった献身的な努力によって実現されてきたと思います。また、職員一人ひとりを大切に、成長を支えるような職場づくりを目指しており、その結果長く勤務して下さる方が多いのは当院の財産であると感謝しています。

地域医療に関する情勢を見極め、病院の方向性を決断する力やリーダーシップは常に父を手本にしてきました。父は診療以外でも医師会役員、病院団体の役員、県行政の審議会委員などを務め、多方面にわたり長年医療政策に関わるが多かったため、いち早く最新情報を収集し時間をかけて考えている姿がありました。当院だけにとどまらず当地域、県全体のバランスの取れた医療の充実のために組織として何をすべきか、どのように理解を求め、意見を集約していくかなど、いつも難しい局面に対処し成し遂げてきた印象があります。全日本病院協会の理事をしていた頃は、現在の亜急性期病床の基本概念となった「地域一般病棟」という考えを全国発信し評価されたことはその一例と言えます。今となっては、もっともっと父と議論すべきことがあったと反省しますが、これからは自らがその立場となり、よく勉強し、よく考え、皆さんと協力して行動していく決意を新たにしています。

人口減少、患者減少、医療従事者確保困難、社会保障財源への不安など医療を取り巻く情勢は不安定ではありますが、こういった時代であるからこそ、情勢の変化に対応し地域の医療を支え続けることが当院の使命と考えます。前理事長の遺志を受け継ぎ、神経内科、精神科の専門医療機関として更に地域に貢献できるよう、周囲の多機関と連携しながら確実に歩みを進めていく所存ですので、世代交代した医療法人つくし会を引き続きご指導、ご鞭撻いただきますようよろしくお願いいたします。

第12回 四国摂食・嚥下障害研究会



平成28年10月1日(土曜日)

15:00~17:05

医療法人つくし会南国病院

在宅医療支援センター4階 センターホール

2016

第12回 四国摂食・嚥下障害研究会を主催して

理事長・院長 中澤 宏之

去る10月1日に標記研究会が当法人在宅医療支援センター、センターホールで開催されました。この研究会は、摂食・嚥下を主とする臨床や研究について、症例や研究の発表を行う研究会であり、四国4県の国立病院機構を中心に当院も参加して平成16年より毎年1回開催されています。四国4県で主催会場を分担し今年は3回目の高知県担当であり当院が主催病院となりました。この研究会は、学術的になり過ぎず、多職種が参加し、会費を徴収せず、各県の参加医療機関が持ち回りで主催者負担により開催する点が特色と言えます。今回は、当院から、5病棟横田真明さんによる「精神科病棟における摂食機能療法の導入」、言語聴覚士桑原生子さんによる「嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査及び両検査の同時施行」の2演題を発表して頂きました。いずれも好評で会場からの質疑も活発に行われ有意義な研究会となりました。発表者のお二人、研究会の準備や会場設営に関わって下さった職員の皆さん、本当にありがとうございました。



精神科病棟における摂食機能療法の導入 一諦めなかった経口摂取へのチームアプローチ

5病棟看護師 横田 真明

高齢化社会が進み、精神科の病院も以前とは随分と違ってきました。認知症の患者さんが増え、摂食に困難のある人が多くなっています。特に精神科の場合、薬の影響もあって、嚥下障害のある患者さんがよく見かけられます。今回の発表もそうした患者さんへのアプローチを

研究したものでした。

こうした四国全体にわたる研究会のあること自体、この病院に来るまで知りませんでした。第12回目になるという今回の発表会、それも勤めている南国病院で行われる、一番最初の演題、と言う事で緊張しました。

短い時間でしたが、発表がなんとかスムーズに終わりほっとしました。これもお手伝い頂いた多くの職員さんのおかげと感謝しています。

しかし摂食嚥下障害の研究は、今回の発表でおわりではなく、これからもこういった患者さんにあたる場面は多く出てくると思います。今回の経験もふまえ、そうした患者さんに対処できるよう、努力を続けていきたいと思っています。

ご協力ありがとうございました。